

鬼怒川温泉駅前再整備における検討の視点について

I 鬼怒川温泉駅前再整備に係る検討方法について

鬼怒川温泉駅前再整備にあたっては、駅前広場、及び藤原総合文化会館並びに周辺公共施設等を一体的にとらえ、市がその方向性を示したうえで、市民委員会から幅広く意見を求めることとした。

第2回の委員会以降において、段階的に市の考えをお示ししていきたい。

【今後検討を進める視点】

- | | |
|----------------------------|--------------|
| ① 民間施設及び公共施設の一体的な整備 | (既存施設の再構築) |
| ② 施設の有効活用に向けた市民との協働 | (新たな価値の創出) |
| ③ 周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制 | (整備後の施設有効活用) |

① 民間施設及び公共施設の一体的な整備

整備予定地には藤原総合文化会館、藤原図書館、観光情報センター、公衆トイレのほか、民間施設として鬼怒川・川治温泉旅館協同組合の建物が存在し、これら施設の再編を検討するとともに、市民だけでなく観光客も集える広場を整備することで、鬼怒川温泉駅前の魅力向上につなげたい。

→公共施設の一体的な整備については、特に藤原図書館の老朽化が著しいことから、その対応をまずは優先したい。

→既存施設の解体費も含めた総事業費の圧縮、及び財源確保の検討を進めていきたい。

→鬼怒川・川治温泉旅館協同組合の建物については、物件移転補償調査を実施。

② 施設の有効活用に向けた市民との協働

藤原総合文化会館廃止後の跡地利活用にあたっては、専門部会において「住民・観光客双方が利用できるものを検討し、公共施設は市民活動の発表の場を確保する。」との意見をいただいた。

鬼怒川温泉駅前再整備検討市民委員会では、施設整備だけではなく、その先にある鬼怒川温泉駅前の活性化に係るソフト事業への展開についても検討を進める必要があり、駅前広場の活用を図るソフト事業についても、市の考えを示し、市民委員会において合意形成を図っていきたい。

→住民利用については、現在の活動実績や関係者の意向などの確認により、施設環境の改善や市民活動誘発の仕組みづくりを検討。

→観光客利用については、観光振興の観点から有効利用を進める必要があり、市有財産ポテンシャル調査の中で整理したい。

③ 周辺施設を含めたエリアマネジメントによる運営体制

藤原総合文化会館跡地に整備する施設を賑わい創出の拠点とし、周辺に好影響を及ぼすことで地域の活性化に繋げていきたい。加えて、鬼怒川温泉駅前のイメージを向上させることで、観光地としての価値向上を目指したい。

このため、施設の有効活用が重要となることから、整備後の運営に係る体制づくりを検討する。

→市有財産ポテンシャル調査の中で、民間活力導入及び観光関連事業者との連携の可能性を検証する。